

2025年11月27日

京都教区 共同宣教司牧ブロック  
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

**2026年 司教年頭書簡 趣意書**  
**教皇レオ14世－希望と一致の橋をかける牧者**  
**～京都教区の宣教司牧に響く教皇のビジョン～**

教皇レオ14世の靈的なまなざしに導かれながら、私たち京都教区は、これまでの宣教・司牧の歩みを確かめつつ、希望のうちに新たな一步を踏み出す一年としたいと願っています。

■ 聖年「希望の巡礼者」の恵みへの感謝

まず、2025年の聖年に与えられた数々の恵みに、心から感謝を捧げましょう。祈りとゆるし、連帶と奉仕を通して、私たちは「すべての人と希望の巡礼者となろう」と願いながら歩みを続けてきました。皆さんは、この一年、どのような人と希望を分かち合うことができたでしょうか。隣人の声に耳を傾け、困難の中にある人に寄り添い、日々の小さな行いの中に神の愛を映すことができたでしょうか。振り返れば、十分に応えきれなかった場面もあったかもしれません。しかし、だからこそ、いまここから新たに始めましょう。出会うすべての人と神のまなざしを分かち合いながら、希望の道をともに歩んでまいりましょう。

■ 教皇レオ14世のまなざし

2025年はまた、

教皇フランシスコから教皇レオ14世へとバトンが渡された、教会にとって大きな節目の年でもありました。「出向いていく教会」「傷をいやす教会」という福音的な姿勢を示してくださった教皇フランシスコに、深い感謝を捧げます。そのまなざしは、教皇レオ14世へと受け継がれ、今も私たちの歩みを優しく、力強く照らしています。新しい教皇レオ14世は、「希望」「一致」「橋をかける教会」というビジョンを力強く語っておられます。ペルーでの宣教経験を通じて、多文化・多民族の人々が福音によって結ばれる姿を見つめてこられた教皇は、教会がすべての人を受け入れる「神の家族」であることを確信しておられます。

■ 京都教区の歩み

京都教区は2027年に教区創立90周年を迎えます。その準備は、2026年6月から始まる予定です。この節目に向けて、京都教区もまた、教皇たちの呼びかけに応えながら、「ともに歩む教会」の姿を少しづつ具体化してきました。今、多文化共生と「靈における会話」を大切にしつつ、私たち一人ひとりが「希望を担う旅人」として、祈りと奉仕、分かち合いと傾聴を通して、福音の光を地域に広げていきましょう。

以上。

\*2026の小教区司教訪問、各地区・ブロック合同堅信式ミサ、行事等の予定は京都教区のホームページ《司教スケジュール》をご覧ください。